

旧町支所

職員減 小回り利かず

鹿児島市喜入町の市道脇に、ぐにゃつと曲がったオレンジ色の支柱がある。10月上旬の台風で折れ曲がってしまったロードミラーだ。道幅は狭く、ほぼ直角のカーブ。対向車は全く見えない状態だが、修理のめどは立っていない。

近くに住む大西宏さん(74)は「南薩方面への抜け道になっていて車が多い。安全に関わることなので、市にはなるべく早く対応してほしい」と話す。

合併から10年たった今も、旧町域では「住民サービスが悪くなった」との不満が絶えない。気になることは町議や役場に言えば、すぐに対応してもらえた。その記憶が消えないからだ。

旧喜入町総務課長だった福里廣さん(64)はロードミラーについて「以前は職員が直せる物は直した。業者発注でも1週間ほどで修理できた」と説明する。

だが今は、部品が必要な場合は年2回ある入札にかけなければならず、5カ所で修理待ちが続く。市全域でも同様の状況だ。



市町村合併の目的の一つは行財政改革だった。鹿児島市でも旧5町の特別職13人、町議82人(定数)がいなくなり、重複部門の統合など行政のスリム化も進んだ。

合併時に5,889人いた職員は今年4月現在、334人減の5,555人。喜入を除く旧4町の職員(計336人、消防など除く)が丸々いなくなったことになる。人件費も2013年度決算で317億円となり、04年度より約32億円減った。

旧町域での不満は、旧5町をカバーする支所の職員定数を見ると理解しやすい。合計460人が約6割減の200人。市全体で削減された職員の8割近くを占める。窓口業務が中心となり、機能は確実に低下した。

市松元土地改良区の吉村清美事務局長(62)は「縦割り行政が進み、小回りが利かなくなった」と感じる。災害査定、道路、農地整備など旧町時代は決断が早かったが、現在は担当者が本庁からやって来る。「地理や地域の事情を知らないことも多い」と指摘する。

管轄地域を担当する支所長はいるが、選挙で選ばれ行政を動かす権限を持つ町長の役割を果たすことは到底できない。



市は合併翌年度からの5年間で、5%の職員を減らす集中改革プランを掲げ、291人(5.05%)減を達成した。これまで民間委託したのは約20事業。115施設で指定管理者を導入し、合わせて100人ほどを削減した。今後も職員は「増える方向にはない」(市行政管理課)という。

合併に伴い、自治組織への運営補助金や桜島フェリーの料金助成など旧5町の52のサービスが消えた。一方で敬老パスや乳幼児医療費助成など旧市の制度が広がり、水道など旧町域の社会基盤整備は旧市の水準に引き上げられた。

人口減少が進む将来は、支所再編の議論も出てくるはずだ。合併10年。60万都市における「温かみある行政」とは何か。官民ともに考える時期にきている。

| | 2004年 | 2014年 | 減少率 | ※旧5町の定数は、消防や保育園等の出先機関を除く |
|----|--------|-------|--------|--------------------------|
| | 10月31日 | 4月1日 | | |
| 吉田 | 81人 | 36人 | ▲55.6% | |
| 桜島 | 83人 | 32人 | ▲61.4% | |
| 喜入 | 124人 | 49人 | ▲60.5% | |
| 松元 | 86人 | 40人 | ▲53.5% | |
| 郡山 | 86人 | 43人 | ▲50.0% | |
| 計 | 460人 | 200人 | ▲56.5% | |



鏡部分が壊れたままのロードミラー。住民からは「合併前はすぐ直ったのに」との声がもれる。＝10月、鹿児島市喜入町